



boidマガジン創刊2周年記念



三宅唱



無言日記 2015

[プレミア上映]

boidマガジン連載中の
三宅唱『無言日記』
その2015年1年分の総集編
劇場用再編集版を一気上映！



2016.3.18 (fri)
渋谷ユーロライブ



未来の2015年を観る

三宅唱がiPhoneで撮りためた「日常」を、毎月数分にパッケージした『無言日記』。

何かが起こり、しかし何も起こらなかったひと月が、無言でありつつも何かを多弁に語りだす。

boidマガジンでは文字と動画でつづられた『無言日記』を、2015年の1年分をまとめて再編集した劇場公開用ヴァージョンは、もちろん「文字」なしの動画のみ。

「無言」感さはさらに高まる。しかしそれゆえに不可視の「文字」がスクリーンを駆け巡る。

何が起こったのか、起こってしまったのか、起こらなかったのか、何もなかったのか。

わたしたちの2015年。かけがえのないすべての一瞬が、ぼんやりと、しかし精緻な構成で並べられる。

振り返るのではない。わたしたちは少なくともスクリーンを振り返ったりしない。

常に前方にあるスクリーンに、わたしたちの2015年が映る。

それがこの映画の希望だ。わたしたちは未来の2015年を見るのだ。

すでに決定的な何かが起こってしまったとしても。いや、それゆえに。

boid 樋口泰人

自分感覚だと、概念じゃ「娯楽」にならないわ、みたいなことか。とにかくそれだと、映画をみるときのハッピー感が欠ける。ハッピー感に欠ける世の中とそっくりな映画をみたいとはまるで思わない。そんな映画は存在しなくて構わない。(2015年1月)

変わらないのは、配給宣伝も、映画づくりと同じくらいものづくりであるというか、映画づくりそのものといってもいい、ということだ。正直、脚本を書くよりも楽しいかもしれない……。 (2015年2月)

ある事件の終わりや心情の変化の結論に至るまでの「過程の長さ」で勝負する映画もあるけれど、そうではなく、事件のあとの一步一步を具体的に生々しく生きる姿をみせる、事件のあとから映画が始まる、というかんじ。それこそリアルだ

し、気持ちがいい。過程を捨てるのは勇気がいるが、まあ捨ててしまっても死ぬわけでもないし、誰が困るわけでもない。(2015年3月)

たとえばモンテ・ヘルマン監督の家で朝起きて、近所をすこし散歩した数十分の時間とか、ニール・ヤングさんに会ったスタジオにいた60分ちょっとの時間とかが、自分の体にこびりついている。

ほんとは30分くらいの長さ、もっと1カットずつを長くしたほうが、そのこびりつき具合を観てくれる方にもなすりつけられると思ったけれど、ちょっと考えて編集して、この長さに一応落ち着けてみた。(2015年4月)

『THE COCKPIT』みるとやる気であるよ、みたいなことを宣伝として自分で言っただけ書いたし、みた友人たちからも、仕事たのしくや

いとふつうに思ったとか、会社もうやめようと思ったとか、とにかくポジティブな言葉をもらって、だよねこの映画! と思いつながら、最近では自分自身がやるべき仕事にまるで集中できておらず、非常にまずい。(2015年5月)

今年もう半分が終わった。と書いてから、なにを書こうか手が止まって、寝た。ものすごくくだらない夢をみて、汗だくで起きた。あまりにもどうでもいい夢で、ムダの極み、と思った。ムダの極み男(ゲスの極み乙女、みたいな……。夢の終盤、ポケットから雀が何匹も出てくる、という出来事がある、起きると窓の外からチュンチュンと鳴き声。(2015年6月)

こないだ京都にいった帰り、富士のサービスエリアに寄った。「東京まで行きたい」と書いた段ボール

紙に手にもった男女2人組のバックパッカーがいた。ただ帰るのもつまらないので、運転していたマサヒコと相談して、東京まで乗せることにした。

男女は兄妹だといっていたが、そうはみえなかった。カップルと言わないほうがいい、みたいなことがあるのかも。(2015年7月)

新宿伊勢丹前のデモ(正確にはデモじゃないらしい。抗議集会?)、到着したら終わっていて、写真でみていたときには埋め尽くされていた歩行者天国が、けっこう広いなあ、と思って撮っていた。(2015年8月)

毎回映画にあわせて特別な場所です上映を仕組んでいて、今年は『ショーガール』を古いボルノ映画館でやったり、来年はバスケットコートのある体育館で『SPACE

JAM』を上映するつもりらしい。なかなかナイスだ。(2015年9月)

かつての三宅がここに来て、いま三宅がここにいる、またいづれ500年以内に、自分の血筋かどうかは知らないがおそらくまた三宅がここにくるのだろうということが、わりとシンプルに想像できた。(2015年10月)

前にも書いた気がするが、10年続けるつもりだ。1年のDVD×10枚として、1セット1万円。1000セット売れば、1千万円になる。10000セット売れば……超ウハウハである。これまでお世話になったいろんな人にお礼したりしても、残ったお金で劇場映画が十分つくれそう。よしもっと売ろう。(2015年特急版)

三宅唱

日時 3月18日(金)

17:30- 開場
17:45- 無言日記2015
19:10- 無言日記2014
20:30- 無言日記2015
21:45- トーク:三宅唱×松井宏(映画批評・翻訳家)×五所純子(文筆家)

料金 ※当日のみ

1回券1,300円/2回券2,000円

開場時間17:30よりチケットを販売。トークは無料。全席自由席、各回入れ替え制。

上映作品



無言日記2014
[66分]
監督:三宅唱



無言日記2015
[66分]
監督:三宅唱

ユーロライブ
EuroLive

渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折ユーロスぺース内
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F

問い合わせ

boid(樋口、田中) ☎03-3356-4003 / bakuons@boid-s.com

『無言日記』を連載中!

boidマガジン

発行頻度 月4回(毎月20本の記事を掲載、バックナンバーも常時閲覧可能)

月額購読料 月額800円(税別)※読者登録時から翌月末まで無料お試し期間を設定

主な連載 梅田哲也/空族/風元正/黒沢清/五所純子/桜井鈴茂/杉原永純/Soi48

土居伸彰/直枝政広/樋口泰人/ヒスロム/松井宏/三宅唱/湯浅学/ロビン西

<http://boid-mag.publishers.fm/>